

特色ある学校

ルーブリック表による、パフォーマンス評価の試み 「地域連携活動」の指導と評価の研究

岡山県立倉敷工業高等学校長 植原 靖

1. はじめに

本校は、昭和14年に創立し、本年度で創立76年目を迎える。近くの大原美術館を中心とした、倉敷美観地区には四季を問わず、国内外から多くの観光客で賑わっている。倉敷はジーンズの世界的な生産地としても有名で、本校ファッション技術科（前身は繊維科）では現在もジーンズを織る織機が稼働しており、通称“倉工ジーンズ”を製織している。その他、本校には機械科、電子機械科、電気科、工業化学科があり、1学年5科9クラス、全26クラス、全校生徒数1024名の大規模工業高校である。また、本県県南最大の、多くの大手製造業が立地する、水島工業地帯への労働力供給校としての大きな使命を担っている。文武両道を目指し、資格取得のみならず、部活動が盛んで、多くの部が全国大会に進む活躍をしている。

本稿では、ルーブリック表（評価基準）を作成し、パフォーマンス評価を行う、新たな指導と評価方法についての取組を紹介する。

2. 本研究のスタートの経緯

平成25年1月の中教審答申で、①高校生が社会人として、学校から社会へ移行していく事が困難になっている。②社会人として必要な職業観等の育成が学校で充分行われていないのではないかとまとめられた。これを受け、文部科学省から各関係機関に、改善に向けた研究要請が出され、全工協が企画書を、ベネッセとの

共同研究として提出し、採択された。その研究指定校（全国11校）に本校が選ばれ、地域との連携活動をどう指導し評価する事で、生徒の職業人としての資質・能力を育成するかについて研究する事が、本研究のスタートとなった。従来から我々は生徒が職業人になっていく際に必要な資質・能力の育成には、地域との連携活動が有効という実感を持っていた。しかし、その際、教科書もなく、ペーパーテストが実施できるわけでもない。具体的に、何を、どの様に指導し評価しているかは曖昧な部分が多く、教員間、あるいは教員と生徒の間に認識の統一性のずれもいくらか存在していた。

そこで、全工協全体の活動方針、及び指示に添いながら、本校は地域でのイベント「高梁川マルシェ」への参加を通して、本校独自作成のルーブリック表（評価基準）に基づいて、パフォーマンス評価（活動をその場で評価）に取り組む事とした。教員の指導方針と生徒の活動目標、両者の評価基準の認識の一致を目指した。

3. 本研究の本校の取組

「高梁川マルシェ」というイベントは、和食が世界無形文化財に登録された事をきっかけに、本校近くの水島工業地帯にある国指定重要文化財大橋家住宅を主会場に、日本の伝統



ここで例えば、縦軸①社会人基礎力の2は、横軸ステップ2の活動でどの様に評価基準を定めているかという点、拡大した前ページの表の様に、G～Cの4段階の評価基準を設けている。

5. 生徒の活動の様子

ステップ 1

実施計画



イベント実行委員会に出席

ステップ 2

製作活動



製品製作風景

ステップ 3

実践活動



各店舗にエプロンの配布

イベントのチラシ配布



店舗スタッフとして活動

ステップ 4 言語活動

ステップ 5 まとめ

ステップ4言語活動は、課題研究発表会などで報告会を設けたが、それよりもステップ3の実践活動の場面で、イベント企画側の方々、そして、多く来場される方々とのやり取りはまさに、言語活動のトレーニングの場面であった。

また、ステップ5のまとめ活動については、今回の活動用に、生徒に“倉工スキルアップシート”が有効であった。その内容は、①活動テーマ、②活動内容、③活動の感想 を書き込み、1)生徒が自己評価、2)教員が評価、3)外部の方

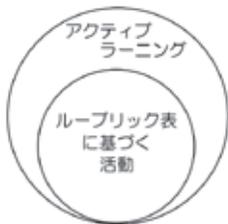
倉工スキルアップシート		ステップ(1)		担当教員 日/月/年	
活動日時	2023年10月10日	活動場所	校内	活動内容	エプロン配布
活動テーマ	エプロン配布	活動内容	エプロン配布	活動の感想	
活動の感想	<p>エプロン配布の活動を通じて、生徒は接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。また、生徒はエプロン配布の活動を通じて、接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。</p>				
自己評価	A	教員評価	B	外部評価	C
活動の感想	<p>エプロン配布の活動を通じて、生徒は接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。また、生徒はエプロン配布の活動を通じて、接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。</p>				
活動の感想	<p>エプロン配布の活動を通じて、生徒は接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。また、生徒はエプロン配布の活動を通じて、接客スキルを身につけ、実践的な学習ができた。</p>				

が評価、あるいはコメントを記入して頂く欄を設けたものである。

6. まとめ

活動後、この取組を通して、生徒の感想やアンケートを見てみると、ループリック表で身に付けて欲しいと我々が狙った内容、社会人基礎力や倉工スタンダードについては理解できる。ただ、十分に達成できたかどうかは疑問との感想を寄せた。

ループリック表、すなわち評価基準は、指導方針であり、生徒の活動内容・目標でもある。これらが可視化される事で、教員と生徒間の評価の食い違いが減少する。更には生徒自身が、自分にとって、各活動で何を、どのレベルまでを目指すかを設定しやすい。この事は、自らが目指すテーマを設定し、次に目指す取組を設定することは、

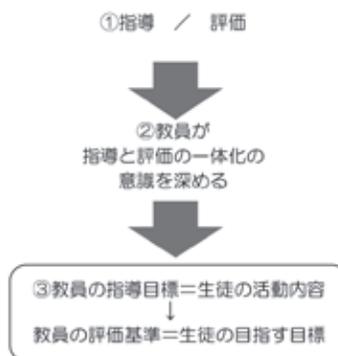


アクティブラーニングでもあると感じた。

次に、パフォーマンス評価であるが、目の前の生徒の活動の様子を、ループリック表に基づいて行うものであり、ペーパーによるテストや、レポートの提出で評価を今まで行ってきた我々にとっては、なかなか慣れない評価方法である。昨今、学力の三要素の中で、特に思考力・判断力・表現力等の活用に関する能力が重視されている。ただ、これらの能力は、見えにくく育成が難しい。それをこのループリック表に基づいて、パフォーマンス評価を行う手法は、有効な手段である事を実感した。このパフォーマンス評価については、生徒の活動をその場で評価していく為の、基礎データが必要となってくる。従来は教務手帳にまとめられていたものであるが、現在はタブレットで、リアルタイムにチェックする方法を、独自のシート・プログラムを組んで模索している。



以上、現在のところまでの取組をまとめたが、地域連携活動のループリック表を基にした、パフォーマンス評価による実践は、以前から行われていた、①教員の指導は指導、評価は評価から、②教員が指導と評価の一体化への意識を深める事になり、更に、③「教員の指導目標＝生徒の活動内容」を明確にしていくと、その結果、「教員の評価基準」と「生徒の目指す目標」とが一致し、生徒の取組への意欲を高めることになっている事を気づかされた。ループリック表の作成、パフォーマンス評価による成果の顕著な部分であると考えている。



本校でのこの実践は、今回から始まったばかりである。“分かる授業”から“考える授業”への転換が強調される今日、教員の教える方法も、生徒の学ぶ方法も、従来からの変化を求められている。ループリック表の作成、パフォーマンス評価の方法の一層の汎用性を追求し、様々な学びの場面で使用できる様、今後も一層の研鑽を深めたいと思っている。